

平成29年第2回
総務文教常任委員会

所管事務調査報告

日 時：平成29年2月15日(水)
午前10時00分～

場 所：特別養護老人ホーム「国見の里」会議室

調査内容：保健福祉課所管事務調査
ミニ特養老人ホーム建設について

出席者：総務文教常任委員
傍聴者3人（産業建設常任委員）

国見町議会

| | |
|------------------------|---|
| 松 浦 常 雄 委員長 | 2 |
| 浅 野 富 男 副委員長 | 3 |
| 東 海 林 一 樹 委員 | 4 |
| 八 島 博 正 委員 | 5 |
| 佐 藤 定 男 委員 | 6 |
| 松 浦 和 子 委員 | 7 |

平成29年第2回総務文教常任委員会 保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月17日

国見町議会議長 東海林一樹

国見町議会議員 松浦常雄

【調査内容】

地域密着型 特別養護老人ホーム「国見の杜」及び、グループホーム「国見の丘」の建設について

説明（国見の里の職員）

- (1) ドローンによる上空からの国見の里及び特別養護老人ホーム、グループホームの建設予定地の映像提示
- (2) 設計平面図による建物の内部の説明。11月1日オープン予定
 - ① 特別養護老人ホーム「国見の杜」について
 - 入居者数29人
 - 障害5の段階の人 1割負担（部屋代、食費は別）月8～9万円（試算）
 - ミニ特養減免措置あり。
 - 1部屋4人、男女別。
 - 見守りのロボット設備を導入する。
 - ② グループホーム「国見の丘」について
 - 2つのユニットを設ける。1ユニットは9人。計18人収容できる。
 - 1人1部屋で食事は全員一緒に。
 - 入浴には、機械入浴の設備も備える。
 - 費用について・・・障害の程度や収入によって負担割合が異なる。
障害度の高い5人の場合、月額12万円～15万円かそれ以上（試算）
- (3) 介護体制について
 - 入居者3人に職員1人が基本だが、国見の里は1.85人に1人である。
 - 新しい介護施設には資格や年齢の制限を設けず採用。多数応募してほしいとのこと。

【感想】

- (1) 新しくできる介護施設・地域密着型ミニ特養とグループホームの内容がよく理解できた。国見の人たちを優先して入居させることや職員として多く採用する方針であることは町民にとって喜ばしいことである。
- (2) 国見の里は、藤田病院との連携がよくとられている。新しい介護施設でも同様の方針であるという。入居者や家族が安心できると思う。

以上

平成29年第2回総務文教常任委員会 保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【調査内容】

総務文教常任委員会は既存の施設に隣接して新しく建設されることになった「国見の杜」と「国見の丘」の建設計画について所管事務調査として説明を受けたものである。

説明の前に運営の主体である社会福祉法人厚慈会の理事長堀切伸一氏から挨拶があった。その中では現在の「国見の里」に入所されている自治体ごとの利用者数、介護報酬が減額される中での取り組みなどが話された。特に介護報酬の引き下げに対しては稼働率を上げるための努力をして補っているとのことであった。

斎藤常務理事からは、新設するのは既存の施設の東側になるが、地形が川を挟むこと等から造成工事に費用が嵩むことと段差が生じること等、立地条件としてはかなり難しいものがあるとのことだった。またこれまでの運営状況については地域の皆さんに支えられており大変感謝しているとのことだった。

【感想】

説明の終盤で介護士募集の話が出たが、労働条件としては他の施設よりは良好と思っていること、介護職員の募集にあたっては資格のあるなしにかかわらずとにかく「やる気のある人」を採用して対応したいという事だった。報酬が低いことから職員が不足していることになっているものと思われるが、介護の現場では他施設から移って来る職員を採用することにさえも気を使っているとのことである。

いずれはお世話になる介護の現場、介護保険の制度が後退することのないように、利用しやすい、行き届いた体制のもとで過ごせるよう注目していく必要がある。

以上

平成29年第2回総務文教常任委員会 保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月23日

国見町議会議員 東海林一樹

【調査内容・感想】

松浦委員長と堀切理事長の挨拶があり、斎藤常務理事（兼施設長）から準備していただいた資料について、スライドを見ながら説明を受けた。

造成工事はすでに始まっており、建築工事も11月のオープンには十分間に合うとのことで、その施設は、グループホームのほうは定員が18名で名称を「国見の丘」とする。ここの入所対象者は国見町内の住民が優先で、認知症と診断された高齢者が共同で生活ができ、食事、入浴などの介護や支援機能訓練が受けられる施設となっている。

また、もう一つの施設は、これも地域密着型の介護老人福祉施設で、定員は29名で名称を「国見の杜」とし、これも国見町の住民が優先で、国見町民にとっては非常にありがたい施設となっている。

すでに住民説明会は1月21日（土）に行い、入所申込みは5月くらいからになるだろうとのことだった。

施設で働く職員の募集は始めており、その職種と人数は①介護職員（常勤・パート）30名②看護職員（常勤・パート）若干名③機能訓練指導員（常勤・パート）若干名としており、資格は、①資格がなくともやる気のある方（採用後希望があれば資格を取得できる制度がある）②正看護師、准看護師のいずれか③理学療法士、作業療法士、看護師、准看護師のいずれか、としている。

※ただ、この職員募集が一番のネックになるのではと斎藤常務理事は話していた。

以上

平成29年第2回総務文教常任委員会
保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月23日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【調査内容】

- (1) AM10:00 国見の里会議室にて
ミニ特養老人ホーム建設について説明を受けた。
- (2) 建設は2つの建物となり、
- ① 国見の杜（特別養護老人ホーム）29床
4人部屋7室、1人部屋1室の8室を予定。
国見町民を優先する。合計29名を予定。
 - ② 国見の丘（グループホーム）18床
1床9名で2室、合計18名を予定。
- 以上の2施設について斎藤常務理事より1時間説明を受けた。

【感想】

国見の里を補完する施設として2つの施設が建設されており、今年11月オープンを目指している。計画どおり完成することを願う。
この事業により、厚慈会がより充実した活動になることを願う。
高齢者の地域包括ケアシステムの一層の充実が実現できることを期待する。

以上

平成29年第2回総務文教常任委員会 保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月16日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【調査内容】

1. 特別養護老人ホーム（国見の里）の現況

- 平成25年9月年開所以来、好評をいただき入所率は100%である。
現在の入所者は国見27人、桑折15人福島・伊達各20人他となっている。
- ショートステイも稼働率80～90%と良好な状態が続いている。
- 従業員は93人、内38人は国見町在住で大変重宝している。

2. ミニ特養老人ホーム（国見の杜）

- 地域密着型の特養として、平成29年秋のオープンを予定。
4人部屋が7室、個室が1室で計29人が利用できる。
- 利用料金はまだ決定していない。相部屋の分は多少安くなる。

3. グループホーム（国見の丘）

- 認知症対応型の施設である。（定員18人）
- 1ユニット9人で2ユニットの構成、男女に分かれている。
部屋は個室、食事等、共同生活としてのスペースが設けられている。

4. 課題

- 新たに介護職員30名、看護職員、機能訓練指導員（若干名）を確保しなければならない。
- そのためには従来の募集方法にとらわれず年齢制限をなくした。
資格がなくてもやる気がある方を歓迎するとのこと。

【感想】

- 国見の杜、国見の丘は既存の「国見の里」に隣接して建設される。
これらは行政、病院と連携した地域包括ケアシステムの一環事業である。
- 2施設の整備により、高齢者福祉政策の充実が図られることを期待する。

以上

平成29年第2回総務文教常任委員会 保健福祉課所管事務調査報告書

平成29年2月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

【調査内容・感想】

会議室において、社会福祉法人厚慈会堀切理事長他3名同席のもと、特別養護老人ホーム「国見の里」の現在の状況を含み、新たに建設する地域密着型特別養護老人ホーム「国見の杜」（29床）・地域密着型グループホーム「国見の丘」（18床）の建設計画について説明を受けた。

初めに特別養護老人ホーム「国見の里」の現在の状況について説明があり、公立藤田総合病院とオンラインで結び入所者の対応にあたっているとのこと、家族にとっては安心であろうと思った。また、行動を認知するロボットを12月に7台導入、1月から稼働しており、身体の異常の認知などに活躍しているとのこと、介護士が不足している中でロボットの導入は今後需要が増えることと思う。

次に、地域密着型特別養護老人ホーム「国見の杜」（29床）・地域密着型グループホーム「国見の丘」（18床）について説明を受けた。

- 3月で造成工事終了3月半ばから建築を開始、難しい造成工事
- 9月中の完成
- 10月から開始予定の計画で建設を進めて行く。

地元説明会を1月21日に開催、住民の皆様から歓迎されている施設であり、完成を待ち望んでいる声が多く聞かれた。

地域密着型特別養護老人ホーム「国見の杜」（29床）は4人部屋×7部屋、1人部屋×1部屋、地域密着型グループホーム「国見の丘」（18床）は全部屋個室で、両施設とも平面図から、機能的に設計されていると思った。グループホーム「国見の丘」は認知症だが健康で自分のことはできる方たちなので、キッチンが中央に2箇所の設計になっており、完成後はキッチンから賑やかな声が聞こえるのだろうと思った。

ロボットも「国見の里」同様、導入の考えがあり、導入により職員の負担が軽減されることを期待したい。

入所募集を5月から開始、職員も4月から募集開始の予定。職員採用では、

- 資格はなくてもやる気
- 高齢者の方で初心者でも研修を実施

という従来型にこだわらないモデルをつくらうという考えのお話しに、介護士不足解消の一つの手段であろうと思うが、採用にあたって、「やる気」を尊重されることは素晴らしいチャレンジだと思った。

今後、ますます必要とされる施設ですが、町民対象の地域密着型が同時に2施設できることは、高齢者を抱えている家族にとっての光明の施設になると思う。大変有意義な研修だった。

以上